

Glocal Tenri



月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.19 No.9 September 2018

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

9

CONTENTS

- ・ 巻頭言
「みかぐらうた」の力
／高見宇造..... 1
- ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (32)
「大龍」について③
／佐藤孝則..... 2
- ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道の様相 (21)
戦前のカナダ伝道と日系移民社会④
／尾上貴行..... 3
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (31)
「おさしづ」第3巻における教会事情と「道」
／澤井治郎..... 4
- ・ 日本語教育と海外伝道 (2)
天理教の日本語教育のはじまりの頃②
／大内泰夫..... 5
- ・ 遺跡からのメッセージ (38)
文化遺産を今に活かす⑥ 史跡公園に生まれ変わった唐古・鍵遺跡
／桑原久男..... 6
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係試論 (19)
植民地統治の象徴
／森 洋明..... 7
- ・ 現代宗教と女性 (20)
見えるものと見えないもの
／金子珠理..... 8
- ・ 思案・試案・私案
失われる命・・・“旧優生保護法”
／八木三郎..... 9
- ・ 平成30年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ (4)
第3講：64「やんわり伸ばしたら」
／佐藤孝則..... 10
- ・ English Summary..... 11
- ・ おやさと研究所ニュース..... 12
『天理教事典 第三版』案内／平成30年度公開教学講座／「出前教学講座」申し込み受付／『グローカル天理』年間購読のご案内

巻頭言

「みかぐらうた」の力

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

今年から教会の月次祭では自ら進んで、「おつとめ」の地方を勤めている。教会長として信者の皆様にどうすれば喜んで頂けるのかを改めて思案する中で、それは自らが「みかぐらうた」を味わいながら陽気に明るく、真剣に歌うことだと考えたからである。その結果、教祖の心に溶け込み、たすかりの時間を共有できると信じ、願っている。「みかぐらうた」は本来、「おつとめ」を勤める中から、歌う者も聞く者も、教理を身につけることができる唄え歌である。2代真柱様は、本教の三原典について、「おふでさきによって原理的規範が示され、これに先立って、みかぐらうたによって生命的教導がなされ、おさしづによって現実的指示が与えられた」と言われた。私は特に、この「生命的教導」の言葉に心惹かれている。

ところで、「みかぐらうた」によって人生を救われた人にハンセン病療養所・東北新生園「天理教陽気会」の根津義治さんがいる。私にとっては忘れられない人である。根津さんは若い頃から自然科学への造詣が深く、将来は研究者を夢見たが18歳で発病、人生に絶望し生きる希望を見失う。「自分にできることは何か。自分に残された仕事はあるのか。自分は何のために生まれてきたのか」と自問自答に明け暮れるが、ある日、療養所の仲間から「みかぐらうた」の記された紙を受け取られた。そこには、よろづよのせかい一れつみはらせどむねのわかりたものはない
そのはずやといてきかしたことハないしらぬがむりてハないわいな
このたびはかみがおもてへあらハれてなにかいさいをときゝかす……
とあった。瞬時に思われたそうである。「こんな凄いことを言ったのは一体誰だ。私が今、求めていた答えは、これだ！」と。それから天理の信仰に生きると決意をさ

れたと言う。以来、60年余り、常にハッピーを身に着け、同じ病気で苦しむ人々のおたすけに生涯を捧げて生き抜かれた。これこそ正に「みかぐらうた」の力だと私は思う。「生命的教導」の核心は、こうしたことであるのかと学んだ。

おやさと研究所の佐藤浩司前主任は、『みかぐらうた』によって、当面する悩み苦しみから解放され、士気を鼓舞され、生き方の指針を得た人の話は、枚挙に遑がない。この教えに導かれ、教えを求める者誰しもが多かれ少なかれ経験していることである。親神の人間への呼びかけである『みかぐらうた』には、その中に応答すべき人間の覚悟をも詠まれ、その結果得られる境地や状況を示されている(『みかぐらうたの世界を味わう』)と言われる。誠にその通りである。

最後に2代真柱様が「第7回青年求道者講習会」(昭和34年)でお話になり受講生と質疑応答しておられるので、これも併せて紹介しておきたい。「心勇めなくなつた時、それを乗り切り、常に変わることなく通らせて頂くには、どうすることによって御守護頂きお連れ通り頂けるのでしょうか」という質問である。それに対し、「腹の底から大きな声で、思う存分心がはればれするまでみかぐらうたをお歌い下さい。きっと御守護頂けます。それが理によってというよりも、自分の心を勇めて、そして自分の心から暗さをとるのに、大きな声で、山の中へでも行って、人が笑おうが何でもいいですから、みかぐらうたを歌って御覧なさい。それでまだ心の晴れん経験をお積みの時には、もう一遍御相談にのりますから、これをおやり頂きたい。」とお話になっている。

「生命的教導」と言われる「みかぐらうた」の力を頂いて、また私たちも信仰の歩みを続けたいと念願している。